

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

| | | |
|----------------------------------|---|---------------------|
| 名称：わらべうた幸町保育園 | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：片岡 麻衣子 | 定員（利用人数）： 30名 | |
| 所在地：〒212-0011 川崎市幸区幸町1-749-2 | | |
| TEL：044-511-1277 | ホームページ： https://www.kidslife-nursery.com/ | |
| 【施設・事業所の概要】 | | |
| 開設年月日 2014年4月1日 | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：HITOWAキッズライフ株式会社 | | |
| 職員数 | 常勤職員： 10名 非常勤職員 0名 | |
| 専門職員 | （専門職の名称） 名 | |
| | 保育士 8名 | |
| | 栄養士 2名 | |
| 施設・設備 の概要 | （居室数） | （設備等） |
| | 乳児室、幼児室 | 調理室、事務所、園児トイレ、大人トイレ |

③ 理念・基本方針

保育理念「つながり保育」

「心が動く体験」と「豊かな対話」で、つながりを創造する

1. 子どもとつながる：「主人公」になる
2. 保護者とつながる：「共鳴」する
3. 地域とつながる：「市民」になる
4. スタッフ同士つながる：「チーム」になる

わらべうた保育園

保育方針

子どもの時間が流れる保育園

- ・安心できる人間関係の中で、多様性を尊重します
- ・心の動く体験と深い対話で学びのプロセスを大切にします
- ・子どもの「やりたい」から始まる保育環境をデザインします
- ・学び続け、専門性を発揮するチーム保育を行います

保育目標

- ・自信をもって個性を発揮することも
- ・たくさんの“好き”を見つけチャレンジすることも
- ・“違う”を楽しみ友達とつながることも

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・主体的保育を取り組んでいる。子ども一人一人の思いややりたいが叶うような保育環境作りを目指している。主体的保育のために、週案をWEB作成し子どもの思いやつぶやき、予想される行動が見える化し理想とする保育の実践に繋がっている。
- ・保育環境スケール研修を取り入れ、月齢に合った保育環境を整えている。これによ

り、安全で子ども各々の好きな遊びが広がりや学び合える環境が実現できている。

- ・絵本を生活に取り入れ、絵本や図鑑で調べて解決したり、内容を遊びの中で再現することを多く取り入れ表現活動が自由に体験できるよう工夫をしている。
- ・毎月クラス毎に食育を行い、自分たちが食べている野菜に触れたり、おやつ作りのお手伝いを行い食に興味を持てるようにしている。又栄養士主導でSDGSについて学ぶ機会や残食が減らせるような学びの時間を作り、子ども達が考えられる時間を提供している。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---|
| 評価実施期間 | 2023年 6月 6日（契約日） ～ 2024年 2月 22日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1回（平成30年度） |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

園全体で質の高い保育を提供し、子どもたちの成長を支える環境を整えている

主体的な保育と環境整備に力を入れ、子どもたちが自分で考えて行動できるように支援している。手作りのおもちゃの用意など、創造性を育むための工夫が評価されており、巡回指導でも高い評価を受けている。また、保護者対応の改善にも努めており、コミュニケーションの取り組み強化によって、保護者からの信頼と満足度も高まっている。

週案を文字情報だけでなく、図を用いて表現する工夫を取り入れている

週案において計画された予定は鉛筆で記入し、実際に行った活動は赤色で、子どもからの発信によって行われた活動は青色でマークしている。この方法により、計画と実際の活動の違いや子どもたちの主体的な参加を視覚的に捉えることが可能になっている。また、裏面には予定を文字で詳細に記載し、変更があった場合は赤色で加筆することで、計画の柔軟な調整を可能にしている。

園長の明確なリーダーシップにより職員への責任感を持った園運営を進めている

園長は年初に自ら策定した年間目標と全体計画を職員に伝え、年度ごとの取り組みを共有し、園全体の方向性を明確に示している。さらに、園長は職員が安心して保育を行えるよう、問題が生じた際は園長が責任を負う姿勢を示しており、職員からの信頼と安心感を得ている。園長の姿勢と明確なリーダーシップが、園運営において有効に作用していることがうかがえる。

今後期待される点

子どもたちの安全を確保しつつも、戸外活動を取り入れるバランスを模索している

今回行った保護者アンケートにおいては、現在の外遊びの機会を適切と評価している一方で、もっと多くの外出機会を求める声も多く聞かれている。特に、散歩や地域社会との交流機会の増加を望む保護者の意見には、子どもたちの社会性や体力向上、自然との触れ合いを通じた感受性の育成という期待が込められていることがうかがえる。これらの意見を踏まえ、子どもたちの安全を第一に考えつつ、保護者の期待に応える形でプログラムを充実させることに期待したい。

中長期計画の具体化と単年度事業計画の見直しを課題としている

園長は年間目標を通じて目標達成に向けた年度ごとのステップを設定し、中長期計画達成に向けた実質的なアプローチを行っている。しかしながら、それを中長期の事業

計画として具体的に明示していないため、今後の課題としている。法人を含めた園の中長期計画と単年度の事業計画の見直しが必要である。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

これまで様々な事に意識して園運営を行ってまいりましたが、第三者評価受審によりさらに意識して力を入れていかなければいけない点、改善点が明らかになりました。特に、前回も指摘があった「中長期計画」については、本社より職員に共有がされていますが、園組織全体の中長期計画に統合することができていないので、次年度より園の中長期計画を明確にし、職員と共有を必須としたい。そのために、年度末のスタッフ会議の議題に入れ早々に話し合いと共有を行いたいと思います。また、今後ともより良い園運営のため本社ともしっかりと連携をとり、改善できるよう努力してまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり